

CONNECTIVITY

A S A M E T H O D ? T H E

国際セミナー

接続する国際展・芸術祭

FUTURE OF BIENNALES AND TRIENNALES

2017年 9月27日[水]

13:30~16:00 (開場 13:00)

会場:横浜美術館レクチャーホール

主催:横浜トリエンナーレ組織委員会、文化庁

協力:IBA 定員:200名(事前申込制・先着順)

言語:日英同時通訳 参加費:無料

PROGRAM

13:30-13:40

13:40-14:30

14:30-14:40

14:40-16:00

プログラム

主催者あいさつ

基調講演「直島から瀬戸内国際芸術祭へ」

福武 総一郎(株式会社ベネッセホールディングス名誉顧問)

休憩

パネルディスカッション「接続する国際展・芸術祭—これからの姿」

チアゴ・ドッ・パウラ・ソウザ(第10回ベルリン・ビエンナーレキュレトリアルチームメンバー)

ビグ・オール(イスタンブール・ビエンナーレディレクター)

山出淳也(NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト)

司会:逢坂恵理子(横浜美術館館長/ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター/IBA理事)



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE



文化庁

CONNECTIVITY AS A METHOD?

The Future of Biennales and Triennales

国際セミナー 接続する 国際展・芸術祭

現在日本では、現代アートの国際展・芸術祭が各地で開催されるようになり活況を呈していますが、世界でも美術のグローバル化の結果、国際展・芸術祭の増加と開催地の多極化が進んでいます。

特に21世紀に入ってから、都市の再生、シティ・ブランディング、観光、クリエイティブ産業の育成や雇用促進など、より広範な社会課題に接する場として機能する国際展・芸術祭への関心の高まりを見せています。

本セミナーでは、瀬戸内海を舞台にアートによる地域活性を目指す先駆的なプロジェクトを手掛けてきた福武總一郎氏を基調講演に迎えて、アートが持つ根源的な価値、またそれによって得られる新たな社会的価値、国際展・芸術祭が社会のさまざまな要素とつながる可能性について考えます。また、国際展・芸術祭のこれからの姿について異なる地域で国際展・芸術祭を手掛けている専門家を迎えて、パネルディスカッションを行います。

KEYNOTE SPEAKER 基調講演者

福武 總一郎 FUKUTAKE Soichiro
株式会社ベネッセホールディングス名誉顧問

ベネッセアートサイト直島代表、公益財団法人福武財団理事長、瀬戸内国際芸術祭総合プロデューサー。岡山県出身。早稲田大学理工学部卒業。1973年福武書店（現ベネッセホールディングス）入社。1986年代表取締役社長、2007年代表取締役会長兼CEO。2014年より最高顧問、2016年10月より名誉顧問に就任。直島・豊島・犬島など瀬戸内海の島々を自然と建築、アートで活性化する活動（ベネッセアートサイト直島）を25年以上にわたって指揮。2004年（財）直島福武美術館財団（現「公財」福武財団）を設立し、直島に地中美術館を開館。同年、直島町名誉町民受賞。その他、芸術選奨（2008年）、日本建築学会文化賞（2010年）、日本建築大賞（2011年）、モンブラン国際文化賞（2012年）などを受賞。



MODERATOR 司会

「横浜」
逢坂 恵理子 OSAKA Eriko

横浜美術館館長／
ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター／IBA理事

国際交流基金、ICA名古屋を経て、水戸芸術館現代美術センター主任学芸員、同センター芸術監督、森美術館アーティストック・ディレクターを歴任。2001年、第49回ヴェネチア・ビエンナーレで日本館コミッションを務め、2015年には「蔡國強展：帰去来」を企画するなど数々の現代美術展を手掛ける。2009年4月より現職。ヨコハマトリエンナーレ2011では総合ディレクターを、2014では組織委員会委員長を務めた。



©Aterui

PANELISTS パネリスト

「ベルリン／サンパウロ」
チアゴ・ドウ・パウラ・ソウザ
Thiago DE PAULA SOUZA

キュレーター／エデュケーター、
第10回ベルリン・ビエンナーレ キュレトリアルチーム

ブラジル・サンパウロ在住。アフロブラジル美術館のエデュケーター、「Living On – In Other Words on Living?」（2016年、ウィーン美術アカデミー）の共同キュレーターなどを経て、2016年、第32回サンパウロ・ビエンナーレのパブリック・プログラム「Accra Study Days」および同ビエンナーレの「Bienal's Oficina de Imaginação Política」の各企画に参画。アーティスト主導のプラットフォーム「Ianchonete.org」と協働し、「We Cannot Build What We Cannot First Imagine (WCB WCFI)」を制作。



「イスタンブール」
ビゲ・オール Bige ÖRER

イスタンブール・ビエンナーレ ディレクター／IBA副理事

1977年イスタンブール生まれ。イスタンブール文化芸術基金にてプロジェクトのコーディネーションに携わり、2008年イスタンブール・ビエンナーレのディレクターに就任。ヴェネチア・ビエンナーレ トルコ館のアドバイザー、国際的な文化芸術プロジェクトのコンサルタントや審査員、さらにはEUの文化基金を評価する専門家としての活動も行っている。また、イスタンブール・ビルギ大学にてビエンナーレや国際展のマネジメントについての講義を担当した。2013年3月からは、IBA副理事を務めている。

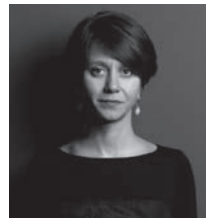


Photo: MUHSIN AKGUN ISKIV

「別府」
山出 淳也 YAMAIDE Jun'ya
NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事／アーティスト

1970年大分生まれ。PS1インターナショナルスタジオプログラムに参加。文化庁在外研修員として滞在。アーティストとして「台北ビエンナーレ」（2000～2001年、台北市立美術館）など多数に参加。2005年にBEPPU PROJECTを立ち上げる。別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合プロデューサー、国東半島芸術祭 総合ディレクター、おおいトイレンナーレ 総合ディレクターを歴任。2016年より「in BEPPU」総合プロデューサー、国民文化祭おおい2018市町村事業 アドバイザー。平成20年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（芸術振興部門）。文化庁文化政策部会文化審議会委員。



【お申込み先】 <http://www.itnseminar-yt2017.jp/>

*本セミナーに先立ち、実務者ワークショップ（10:00～12:00）を開催します。
詳しくは上記URLをご覧ください。

【お問い合わせ】 NHKプロモーション内事務局

Tel: 03-5790-6423 Email: info_itnseminar_yt2017@nhk-p.co.jp

【会場へのアクセス】

横浜美術館 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

みなとみらい線（東急東横線直通）「みなとみらい」駅3番出口徒歩3分

JR線、横浜市営地下鉄線「桜木町」駅から〈動く歩道〉を利用、徒歩10分。

*横浜美術館では、現在ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラバゴス」を開催中です。

